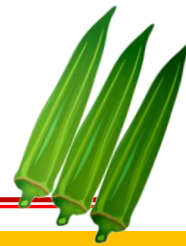




サンビオティック農業で大豊作！

オクラ 栽培基準



◆本圃◆

時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
3~4月	育苗期 (育苗の場合)	育苗培土(市販) 鈴成	必要量 培土に対して5%	混和	播種または鉢上げする場合は培土には、病気に強く、花芽分化しやすい苗を作るため、鈴成を培土に5%混和します。有機質の少ない培土の場合は、五穀堆肥を10%混和します。上記混和後2週間程度おいて良くなじんでから使用します。
		菌カアップ コーソゴールド	200倍希釈 500倍希釈	7日おきに灌水 (4回以上)	左の希釈倍率は、ポット育苗の場合です。セルトレー育苗の場合は、根鉢が巻きすぎ、老化または肥料欠乏になりやすいため、菌カアップは500倍希釈と薄めに行います。
		コーソゴールド	500倍希釈	葉面散布 (7~10日おき)	花芽分化促進となります。防除の際、農薬とコーソゴールドを混用して散布すると良いです。病害虫多発時は、本気Ca2000倍を加用します。
3~4月	本圃準備 (元肥)	五穀堆肥 有機百倍 鈴成	50袋 5袋 10袋	土壌混和	あらかじめ土壌分析に応じて、pHを6.5程度に調整するため、石灰、苦土などを施用しておきます。苦土入りのカキ殻石灰などがお勧めです。 その後、2~3トン程度パーク堆肥・牛糞堆肥などの堆肥を施用します。五穀堆肥の場合は50袋です。豚糞、鶏糞の場合は、500kg以下とします。堆肥施用後混和し、1か月置きます。薬剤土壌消毒や太陽熱消毒、還元消毒をした後は微生物が減っています。消毒後に必ず菌カアップ5~10リットルを灌水します。 元肥の有機百倍は、マッスルモンスターに置き替えてもよいです。その他、苦土や加里などの不足は、市販肥料で補います。(硫マグ、硫酸加里)
4~5月	播種、または定植	菌カアップ	200倍希釈	灌水 7日おき	播種時は、菌カアップ300倍駅に一晩浸漬して播種すると良い。 露地に定植の場合は、必ず支柱を立てて、苗を固定し、風で揺さぶられないようにすること。活着までは、こまめに菌カアップ200倍を手灌水する。
5~6月	生長促進 生殖生長促進	菌カアップ コーソゴールド	5リットル 500倍希釈	灌水 7日おき または 葉面散布 随時	菌カアップで発根促進、土壌病害の抑制を図り、順調な初期生育を促します。水量は、500L~1トン程度です。コーソゴールドで花芽分化を促進しますが、元肥が効きすぎて樹勢が強すぎる場合は、本気Ca2000倍希釈を混用して、葉面散布を行います。葉面散布は、農薬との混用はOKです。
6月~ 収穫期	樹勢維持 収量アップ	菌カアップ 糖力アップ	5リットル 5kg	灌水 7日おき	収穫が始まったら、樹勢を維持するため糖力アップを灌水します。あまり樹勢が強すぎる場合は、省略します。また、ネコブセンチュウ被害に対しての抵抗カアップにも、菌カアップと糖力アップの併用がお勧めです。
	追肥	有機百倍 硫酸カリ	2袋(40kg) 4kg	土壌散布 4回程度	灌水チューブ敷設の場合は、水が届く場所に追肥します。 1段目の開花期に1回目の追肥を行い、その後は2~3週間おきに追肥を行います。 切り戻す場合は、その1週間前に追肥しておきます。
	生殖生長促進、品質向上、病害虫の対応	コーソゴールド 本気Ca(マジカル)	500倍希釈 2000倍希釈	7日おきに 葉面散布 (月2~3回)	発酵リン酸とキレートカルシウムを吸収し、花落ちの防止、肥大、食味の向上、病害虫対策に効果的です。農薬との混用はOKです。病害虫が多い時、窒素過多の時は、純正木酢液500倍を加用します。
水害・湿害発生時	応急対策	酸素供給材 菌カアップ	規定量 10リットル	灌水2回	大雨水害等により冠水した場合は、MOXなどの酸素供給材を速やかに灌水し、翌日菌カアップ10L(50倍希釈)で灌水する。3日後、再度菌カアップ10L(50倍希釈)を灌水する。

※糖力アップは、点滴灌水、ドリップ灌水では詰まりますので使用をお控えください。

※暖地の露地栽培体系のモデルです。地域、作型によって、時期が異なりますので、生育ステージで判断してください。

※可能であれば、土壌診断を実施し、データに基づいて施肥設計を行うことをお勧めします。

※品種や時期、土壌条件等によって、施肥量は加減してください。